

12/8

株式会社モンベルと 包括連携協定を締結

本市は、国内有数のアウトドア総合メーカー「株式会社モンベル」との連携と協力に関する包括協定を締結しました。

同社は、これまで116の地方自治体や企業、大学などと包括連携協定を締結。本市との連携では、森里川湖の多様で豊かな地域資源を持続的にいかし、アウトドア活動などの促進を通じて地域の活性化と市民生活の質の向上を目指します。

締結式で小椋市長は、「モンベル様とは、エコツーリズムの推進やSEA、TOSUMMITなど多方面で関わりをいただいています。



◀握手を交わす小椋市長と辰野会長(左)

▶連携事項

- (1) 自然体験の促進による環境保全意識の醸成に関すること
- (2) 子どもたちの生き抜いていく力の育成に関すること
- (3) 自然体験の促進による健康増進に関すること
- (4) 防災意識と災害対応力の向上に関すること
- (5) 地域の魅力発信とエコツーリズムの促進による地域経済の活性化に関すること
- (6) 農林水産業の活性化に関すること
- (7) 高齢者、障がい者等の自然体験参加の促進に関すること

連携・協力を進めることは、本市のまちづくり非常に有意義なことです」と話しました。
株式会社モンベル代表取締役会長の辰野勇さんは、「琵琶湖から鈴鹿山脈まで広範にわたる多様な自然がひとつの自治体の中にあるというのは意外と少なく、これから知恵を絞りながら連携と協力について我々も提案していきたいです」と述べました。

12/1

くすのきに思いを寄せて 市原小学校150周年記念式典が開催

市原小学校は、12月1日に創立150周年を迎え、記念式典を開催しました。

同校は、1873年(明治6年)に創立した遷喬(せんきやう)学校が前身。これまでも、記念事業として各自治会代表者でつくる実行委員会を中心に、卒業生が当時の思い出を語り合う思い出フォーラムや気球体験、グ



11月3日に行われた、気球体験やキャンドルナイトの様子。このほかにも懐かしの写真の展示などが行われました。

ラウンドに灯ろうを並べて点火するキャンドルナイトなどを行ってきました。

式典では、在校生82人による創立150周年記念歌「くすのきの詩」が披露され、来賓や教職員らも、同校のシンボルカラーであるくすのきを思いながら150年という歴史に思いを寄せました。児童を代表して池田夏希さんと飯田結愛さんは、「この記念すべき年に6年生としてこの学校に居られることがとてもうれしいです。計画していたいただいた地域の皆さん、本当にありがとうございます。



西村和恭実行委員長のあいさつを真剣な面持ちで聞く児童ら

した。全校児童の皆さん、この伝統ある学校に新しい歴史を刻み、次の世代へつないでいけるように一日一日を大切に過ごして行きましょう」と感謝と決意を述べました。



創立150周年の記念歌「くすのきの詩」を大きな声で歌いました。



教育功労者表彰では、4・5年生が花と表彰状を手渡しました。

第60回

一年の健康は元旦にあり

1月1日
9:45
スタート

東近江元旦健康マラソン

歴史の始まり

元旦健康マラソンが初めて開催されたのは、昭和38年1月1日。当時の八日市市陸上競技会会長の谷宇一郎さんや同協会有志により開催された「谷杯争奪元旦マラソン」が始まりです。中央公民館前を発着点として、松尾神社を経て瓦屋寺を折り返すコース(全6km)で、18人の選手が参加しました。

受け継がれる歴史

昭和56年の第19回大会からは、「八日市市元旦健康マラソン」に名称を変更。競走だけでなく広く健康づ

くりも意識したコースに変更されました。元五輪選手の沢木啓佑選手をはじめ、君原健二、寺沢徹、宇佐美彰朗選手など日本の名だたる選手を特別招待し、盛大に開催してきました。

平成5年の第31回大会からは、布引運動公園体育館(現在の総合運動公園布引体育館)を発着点とするコースへと全面変更し、参加者数も1000人の大台を超えました。

また、平成23年の第49回大会には、陸上競技場の布引グリーンスタジアムを発着点とする本格的なコースで開催。過去最多1236人のランナーの参加でにぎ

60回目の記念大会

わい、現在まで引き継がれています。

半世紀以上の長い歴史を誇るこの大会は、本市の生涯スポーツの普及・振興に大きく貢献してきました。3年ぶりとなる今大会は、60回目の節目を迎えます。この日に向けて練習を重ね、体調を整えてきたランナーが自然豊かな東近江路を快走する雄姿を皆さんで応援し、2023年の健康を願いまししょう。

問合ポータル課
IP 050・5801・5674
FAX 0748・24・5571



昭和40年

谷杯争奪元旦マラソン
瓦屋寺の折り返し地点



昭和50年

八日市市元旦マラソン
中央公民館前でスタートを待つ



平成14年

第40回記念大会
シドニー五輪選手の市橋さんを招待



令和2年

第58回東近江元旦健康マラソン
ゴール目指して坂を駆け上れ



東近江市陸上競技協会
小林 優会長(沖野一丁目)

大晦日夜8時、準備を終え「いよいよ」と胸弾ませた第1回大会。第12回大会では五輪選手を招待するために奔走。第1回大会優勝者として選手宣誓を行った第50回大会など、元旦マラソンとともに自身が歩んできた68年の陸上競技生活がよみがえってきます。元旦マラソンは、私にとって特別な大会であり、街頭から送られる声援も力となります。還暦を迎えた今大会も全力で楽しみたいと思います。